

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570207530
法人名	有限会社 母恵夢
事業所名	グループホーム母恵夢
所在地	能代市能代町字中川原26-984 (電話) 0185-54-3270
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年12月11日

【情報提供票より】(21年11月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,150 円		

(4) 利用者の概要 (11月 24日現在)

利用者人数	名	男性 0名	女性 9名
要介護1	2名	要介護2	3名
要介護3	3名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 84歳	最低 77歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平野医院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市の住宅地の一面に在り、近くの米代川堤防は春には桜が咲き、白神山地も眺められる等、四季折々の草花や鳥のさえずりが身近に感じられる環境に位置している。毎月1回の会報に、利用者の写真を載せながら生活の様子を家族に伝えるように努めている。職員の研修を積極的に行い、認知症のケアの質の向上に取り組んでいる。研修受講後は、全職員に報告して、実践できるものは即活かしている。職員間で日頃から気軽に相談できる関係になっており、チームワークの良い事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で、玄関に置かれていた備品の保管場所を確保することを改善項目として挙げられたが、保管場所を移し、整然とした玄関になっている。又、さらに期待される項目として挙げられた介護計画の作成では、全職員が自由に意見を出し合って、その人らしい生活を支援できるような介護計画するように努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が相談して自己評価に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、市の職員、町内会、老人クラブ、家族が構成員となって開催している。事業所の状況を報告すると共に、認知症のケアについて、理解してもらうように取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関に意見箱を設置する他、家族が面会するときに意見や苦情を聞くようにしている。又直接口頭で、苦情を訴えた家族に対しては、管理者が直ぐに改善策を説明して、納得してもらう等、家族の意見を運営に反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の住民から野菜の差し入れがあったり、町内会の祭典に参加したりして、地元の人々を交流を深めている。
	重点項目④

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気のもと、地域の中でその人らしい生活が出来るように、職員が手書きした理念を分かりやすく見やすい形で掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に見えるように食堂と事務所に理念を掲げてある他、日頃の申し送り等で理念を確認してその実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の住民から野菜の差し入れがあったり、町内会の祭典に参加したりする等、地元の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で相談して、自己評価を行い、外部評価実施後にも相談して、改善課題に対しては直ぐに改善を図るように努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催して、外部評価の結果も報告している。町内会や老人クラブ等とも情報交換を行い、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の場で、事業所の報告をする他、普段から気軽に連絡が出来る体制になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、会報「母恵夢だより」で、利用者の写真を載せて、生活状況を報告している。併せて、金銭の出納状況を報告している。又、利用者が急変した場合に備えて、24時間連絡が取れる家族の連絡先を把握しており、何かあれば直ぐに電話連絡出来る体制になっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置する他、面会時に意見を伺うように努めている。又電話で苦情を訴えた家族に対しては、管理者が職員に相談して、即改善策を説明して納得してもらう等、事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わった場合は、全職員が日頃の実践を通じて、利用者のケアについてさりげなくアドバイスをを行う等、職員と利用者が早くスムーズに馴染めるように配慮し、利用者のダメージを防ぐよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に、研修の回覧を行い、希望者は受講できる体制となっている。受講後にはカンファレンスの際、他の職員に対して学んだ内容を伝えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代山本グループホーム連絡協議会に加入して、他の事業所と情報交換をしたり、交流を図り、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と十分に相談して、納得した上でサービスを利用出来るように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	だまこ餅やケーキ作りを本人と職員と一緒にしたり、昔話をする中で、学んだり支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのアセスメントを活用して、本人の希望に沿って支援して、無理のない生活ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族と相談して、その人らしい介護計画を作成している。カンファレンスの場で、全職員が自由に意見を出し合って、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行う他、本人に変化が生じた場合は、現状に即して見直しを行い、計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって通院の介助を行ったり、認知症のケアに関して家族の相談事に応じる等、柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望でかかりつけ医を決めている。往診してもらったり、通院して適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ターミナルケアは実施していないが、重度化した場合は、家族と医師と相談して、全職員で方針を共有する体制となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重して、言葉掛けには十分に注意している。個人情報も厳重に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて希望に沿った一日を過ごしてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事づくりを行い、同じテーブルに座って食事をしている。旬の食材の話題を提供して、楽しい雰囲気が出せるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	無理に入浴させることはなく、一人ひとりの健康状態を把握し、希望に合わせて入浴出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	箒で自分の居室を掃除したり、洗濯物を畳む等の役割を楽しみながら行うように支援している。又桜見物に出掛けたり、五能線に乗って日帰り旅行を行って、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物は、希望する商店に出掛けて行ったり、美容院に出掛ける等、一人ひとりの希望に沿って支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	鍵はかけていない。夜間職員が一人の時には施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を実施して、災害時の対応を身に付けている。又、日頃から地域の方には協力をお願いしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量を把握している。一人ひとりの状態に応じて、食事量を変えている。また、栄養バランスについては、主菜が肉料理の翌日は、主菜を魚料理にする等工夫している。季節の食材を多くして、3食バランスの良い内容になっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節に合わせて鉢花をたくさん飾っている。又廊下には外出した時の写真が掲示しており、居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には自宅で使っていたタンスや時計等が持ち込まれ、本人が安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。		

※ は、重点項目。